

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	齋藤 妙子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設になっていて他部署との協力体制ができています。 ・安岡病院、山の田内科が協力病院として緊急時等の受診などの連携ができています。 ・施設内は家庭の延長線としての雰囲気があるようにし、不安や心配事を訴えてくる利用者様には、個別に対応をしている。 ・利用者本位の柔軟な対応に心掛け、緊急な泊りなど家族の要望の受け入れをしている。
事業所名	小規模多機能 フォイデ金比羅	管理者	野村 恵美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			2人		1人	1人		5人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所自己評価を基に出来ていない項目に重きを置き、業務を通して解決が出来る様、都度全職員で把握・分析・振り返りをし取り組んで行く。又、職員の意識やレベルの差もあるが日々の業務や毎月行っている勉強会外部研修（WEB研修など）も活用し個々がステップアップをして行き、スキルやケアの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務や毎日実施するミーティング等を通して出来ていない所は少しでも改善出来る様に全職員で取り組み、都度振り返りも行った。職員個々でも毎年個人で作成している研修計画に沿って自己学習や毎月実施している勉強会などから新たな知識を学びスキルアップを図っている。学んだ事は業務に活かし全体のケアの能力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> *地域住民の意見 ・利用者のニーズの把握、職員間の情報共有に努めている事がわかります。今後もほとんど出来ていないと回答した人をなくす努力は続けて欲しい。 自己評価をあげるためには、職員の自己啓発の研修も必要かもしれないですね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き日々の業務や毎日のミーティングを通し都度振り返りを行う。各項目の改善計画を個々が理解し達成に向け全職員で取り組んで行く。又、自己学習や毎月実施している勉強会だけでなくWEB研修も活用し職員一人一人のスキルアップを図り、全体の質の向上に繋げて行く。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も施設周辺を運転する際は交通ルールを遵守する。時間帯によっては子供や年配の方の歩行者もある為、特に注意をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続し、施設周辺の交通ルールを守っている。送迎時は安全運転に努め、通勤時等も気を付けている。施設から出る際の右折禁止も表記があり、利用者家族も来苑時に守っている。 	<ul style="list-style-type: none"> *地域住民の意見 ・コロナ渦のため、施設内へ入る機会があまりないのでしつらえ等わかりかねる所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も通勤時や送迎時の事業所周辺の交通ルールを遵守し、来苑した利用者家族などにも説明し周知をしてもらう。 ・季節にあった飾り付けなど、利用者に楽しみをもってもらいながら居心地の良い空間作りを行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが収束し、外部との交流が出来る様になった時は運営推進会議や地域密着委員会を活用し地域と協力し行事を開催して行く。引き続き近隣住民と会った際の挨拶など、現状でできる事を探して地域との関係性を深められるよう努力をして行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の為、施設への出入りに規制があり運営推進会議・地域委員会の開催も難しく地域の方と顔を合わせる機会が少なかった。その為、地域と協力しての行事開催には至らなかった。継続し、通勤時等近隣住民と会う機会がある際はこちらから挨拶をする様に心がけ、レクリエーションや行事では金比羅宮に初詣に行くなど出来る範囲で地域資源の活用をするようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> *事業所職員の意見 コロナウイルスの急激な感染拡大時はイベントや会議の開催は難しいと思います。世間は少しずつ動いてきています。出来る事を考えていかなければいけない。 *地域住民の意見 コロナウイルスもあり、イベント等の参加開催は難しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。以前の様に地域の方を交えて運営推進会議や地域密着委員会の開催が出来た際には情報交換を行い地域のイベントへの参加、行事の開催に向け取り組んで行く。 ・感染対策に気をつけながら日々の挨拶や地域資源の活用を継続し、地域に根付いた事業所を目指して行く。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが収束し、外部との交流が出来る様になった時は運営推進会議や地域密着委員会を活用し地域と協力し行事を開催して行く。地域密着委員会での金比羅通信やホームページの活用など、コロナ禍であっても出来る情報発信・新たなアピールの仕方も探して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の為、運営会議や地域委員会の開催も難しく地域と協力しての行事開催には至らなかった。地域密着委員会での金比羅通信（広報誌）は回覧板を活用し地域の方に閲覧してもらっている。毎月発行している小規模通信においては、家族が遠方であったりコロナ渦でなかなか会えない方もおり利用者の様子がわかり喜ばれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> *利用者家族の意見 ・送迎時に家での様子を聞いてくれたり、デイサービスでの様子を伝えてくれるので安心できます。行事があった日には楽しそうに話すことが多く、感染には気をつけながらそういった機会が増えると良いと思います。 *地域包括支援センターの意見 メールや広報誌を使用し、家族と情報交換が出来ているのが理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。以前の様に地域の方を交えて運営推進会議や地域密着委員会の開催が出来た際には情報交換を行い地域のイベントへの参加、行事の開催に向け取り組んで行く。 ・継続し、ホームページの活用・広報誌を通じ地域の方や家族へ情報発信をして行き地域との関係性の構築に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが収束し、外部との交流が出来る様になった時は運営推進会議や地域密着委員会を活用し地域と協力し行事を開催して行く。引き続き近隣住民に会った際の挨拶など、現状でできる事を行い地域に必要とされる事業所を目指して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の為、運営会議や地域委員会の開催も難しく地域と協力しての行事開催には至らなかった。近隣住民に会った際の挨拶は継続して行い、地域との関係性が切れないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> *事業所職員の意見 ・フロイデ金比羅内の連携に努め、複合型施設の良さを活用して下さい。 コロナ渦ですが、挨拶の積み重ねが事業所を知ってもらいきっかけになったりいろいろな形で展開していくこともあります。今出来る小さな事をじっくり続けて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。会議や委員会だけでなく回覧板やインターネットなども活用し情報収集を行うようにする。感染状況に応じ、地域のイベントへの参加、協同での行事開催に向け取り組んで行く。又、地域の方への挨拶や広報誌の作成も継続し事業所を知ってもらい努力をして行く。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが収束し、外部との交流が出来る様になった時は運営推進会議や地域密着委員会、回覧板を活用し避難訓練などイベントへの参加を呼びかけて行く。引き続き近隣住民に会った際の挨拶など、今できる事を継続し地域住民とコミュニケーションを取って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防の為、施設への出入りも規制があり、地域の方の避難訓練や行事への参加は出来なかった。コロナ渦であるが、継続し近隣住民の方への挨拶やレクリエーションなどを通し地域へ出向く様心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> *地域住民の意見 ・コロナ渦ではありますが、いろいろ努力をされている事がわかります。状況が落ち着けば、また交流が出来るのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。今後も感染状況に応じ、避難訓練や行事など地域へ参加の呼びかけをして行く。地域の方への挨拶等、現状で出来る事を継続して行い、話しやすい・頼みやすい関係づくりをする事で地域との良好な協力体制を目指して行く。